

2022 年度事業計画

基本方針

Sustainable *2022*

公益社団法人日本歯科技工士の目的は「歯科技工に関する知識及び技術の進歩発展を図るとともに、歯科技工の質の確保及び向上に係わる事業等を推進し、もって歯科医療及び口腔保健等の増進に寄与すること」とされている。そして、この目的を達成するために主に8の事業が掲げられており、これまで、歯科保健医療に関わる歯科技工士の唯一の社会的代表部として67年に亘りその役割を担って来たことから、引き続き、志を同じくする者が組織規範に則り、「持続可能な」組織の発展を目指し、さらなる社会貢献に努める。

1. 第2次中長期総合計画の策定

- 公益法人として中長期の事業計画を示すことは、単年度事業の充実に欠かせない取り組みであり、組織事業のあり方として定着させていく。
- 策定された計画は、組織の機関決定を経て、地域組織と実現に向けた「目的」と「期間」を共有し、一体となって活動する。
- 策定後は、各事業部門が連携して啓発活動を積極的に行い、組織の有用性をアピールする手段として活用する。

2. 公益社団法人としての円滑な会務運営

- 歯科技工士のナショナルセンターとして、歯科技工士の矜持を持って社会貢献に努め、その存在の有用性をアピールする。
- 67年の活動の歴史を踏まえて、歯科技工士の唯一の社会的代表部として「持続可能な」組織運営を旨として、さらなる発展に努める。
- 公益目的事業と各事業部門の事業内容は、常に「検証」と「改善」を繰り返し進化させる。

3. 歯科技工士の環境整備に向けた取り組み

- 歯科技工士の環境整備に向けた国の「検討会」、「調査研究」、「受託事業」に積極的に関わり、目的達成のための役割を担う。
- 課題解決の柱である「製作技工に関する費用の考え方」、「歯科技工士基礎教育の年限延長」等については、支援協力者と連携して実現に向けて戦略的に取り組む。
- 環境整備の原動力として不可欠な組織拡充について、引き続き、地域組織と危機感を共有し、組織一丸となって取り組む。

なお、人生100年時代を迎え、全世代型社会保障の構築が進められる中、歯科専門職の活躍がますます期待されるが、歯科技工士を取り巻く状況は依然として厳しいことから、引き続き、政策や制度の改善を支援協力者と連携して取り組む。